



# NEWS LETTER

TOHOKU UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL OF DENTISTRY



2018.6

Vol.

17

## 2018年の歯学研究科

東北大大学院歯学研究科長・歯学部長 佐々木 啓一

年度初めの慌ただしさが、やっとこのところ落ち着いてまいりました。2018年度、最初のニュースレター発行となります。

さて私、佐々木が研究科長に再任され、この4月から新たな任期(2年間)を務めることとなりました。2010年4月から既に8年余、研究科長を務め、かなり老化が進み、疲労も蓄積してまいりました。しかしながらその反面、東北大大学の中では最も古参の部局長となり、大野新総長をはじめ執行部、他部局の先生方、事務系職員と信頼関係は構築できたかと、また全国の歯学部、歯科医師会等からも少しは気にかけられる存在にもなったかな、とも思っております。これらは学内での歯学研究科のプレゼンスの向上、我が国の歯科での東北大大学への認識の向上に少しは寄与しているかもしれません。

そして、この2年が最後の任期となります。東北大大学では教員の定年が63歳から65歳へと延長されましたが、64歳以降は部局長や評議員等の役職には就けないからです。長期政権の弊害が出ないよう意識し、舵取りを行っていきたいと思っております。また次世代へのスムースな委譲ができるよう努めてまいる所存です。

これらを勘案し、執行部も少し改変を図りました。副研究科長には、総務担当として高橋信博教授、教育研究担当として若森実教授に就任いただきました。研究科長補佐は、小坂健教授、笹野泰之教授、鈴木治教授、そして服部佳功教授にお願いいたしました。さらに江草宏教授には歯学ノンベーションリエゾンセンター長に着任いただきました。歯学研究科の国際連携、異分野融合研究、さらに分野統合型教育の担当部署としてますます



重要度が増しており、強化が望まれているリエゾンセンターであり、さらなる実質化を図るべく運営していただきます。

この3月で笹野高嗣教授、正木英二教授がご退職され、教授不在の分野が増えておりますが、教授選考は早期に行ってまいります。顎口腔矯正学分野教授には6月1日付で溝口到先生にご就任いただきました。母校のためにご尽力いただけることは間違いありません。また歯科生体材料学分野の高田雄京先生には4月から特命教授に就任していただき、教育の一層の充実を図ることとしています。

皆様もご存知のように、東北大大学は昨年、指定国立大学法人となりました。これは、世界最高水準の卓越した教育研究活動を展開し、国際的な拠点となる国立大学として文部科学大臣が東大、京大を始め5つの大学を指定したのですが、東北大大学は歯学部を有する唯一の大学となります。また4月からの大野新体制では、これまで以上の研究力向上を目指しております。歯学研究科もこのミッションを果たしていくことが求められます。一方、歯学部教育では教育認証評価、スクーデントデンティスト制度、臨床実習終了後の技能評価試験の導入等、大きな転換期を迎えてます。世界トップクラスの研究と教育を達成すべく、教職員の負担はますます増えていますが、歯学研究科は歩みを止めるわけにはいきません。何卒、宜しくご支援のほど、お願い申し上げます。

### INDEX

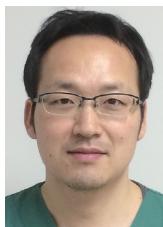
- p1 ・巻頭言／研究科長・学部長
- p2 ・若手研究者インタビュー／野上晋之介助教  
・部活動紹介
- p3 ・新任教授紹介／菅野太郎教授  
・PRESS RELEASE  
『「やせ過ぎ」「家族・友人とのつながりの少なさ」「喫煙の多さ」が高齢者の寿命を縮めていた』
- p4 ・各種おしらせ

## 海外臨床研修を終えた今

顎顔面・口腔外科学分野 助教

**野上 晋之介**

2006年 九州歯科大学 卒業  
2006年 九州歯科大学附属病院 臨床研修医  
2007年 奈良県立医科大学附属病院 後期研修医  
2008年 奈良県立医科大学附属病院 研究生  
2009年 九州歯科大学附属病院 医員  
2010年 九州歯科大学 助教  
2013年 東北大学病院 医員  
2013年 東北大学大学院歯学研究科 助教  
2017年 オーストリア共和国 ザルツブルクパラケルス医科大学 留学



### 一顎顔面・口腔外科学分野のご紹介をお願いします。

2012年に顎顔面外科学分野と口腔外科学分野が1つになり顎顔面・口腔外科学分野となりました。現在は高橋哲教授のもと、約40名の医局員で日々診療・研究を行なっています。それまで2つであった分野が1つになったことで臨床と研究においてます始めたことが診療グループ体制の構築でした。これは腫瘍、顎変形症など口腔外科領域で代表する疾患毎をそれぞれのグループで診療・治療方針を議論し、さらには臨床的な研究テーマも各グループ毎で立案し、グループ間で切磋琢磨しながら日々研鑽しています。それまでは治療方針や研究内容は分野間で異なっていたため、それらを一本化するという意味でも診療グループ体制をとってることは意義があると思っています。

### 一昨年度は、海外へ臨床研修に行かれていたそうですね。

2017年より1年間オーストリアのザルツブルクに海外留学をさせていただきました。顎関節外科手術に関するセミナーが2014年にウィーンで開催され、そのセミナーに参加したことがきっかけでした。そのセミナーの

モダレーターに留学先となった施設の教授がいて、その方が高橋教授のお知り合いということもあり、セミナー終了後に施設見学に行くことになりました。ヨーロッパにある施設をいくつか見学に行きましたが、臨床に対する感性など私自身の肌に合うなと思い、留学先として決めました。

### 一留学先ではどのような研修をされたのですか。

毎日朝から手術室に入りあらゆる手術を経験させていただきました。とくに悪性腫瘍切除時にできる欠損部に対して、血管柄付き遊離皮弁を用いた再建の手術数が圧倒的に多い施設でしたので、遊離皮弁採取や血管吻合手術を多く経験することができました。

### 一日本と留学先で違いなどは感じましたか。

研修医や若手ドクターに対する教育、指導は直接教授が行っている姿が印象的でした。経験が一番あるドクター(教授)が若手を教えることで、最短でスキルや知識のステップアップを図れるという考え方での教育体制でした。これは教授の診療や研究に対する考え方が若手ドクターに直接伝えることができ浸透しやすくなるシステムだと思います。しかしながら、日本ではヒエラルキーの形成がしっかりされているせいか、一般的に教授との距離は遠く、若手ドクターが教授の第一助手で手術に入ることは難しく、診療以外で会議などが多い日本では直接指導が難しいことが現状ではないかと思います。

### 一本学に戻り改めて感じた本学の魅力はありますか。

東北大学は総合大学でもあるため医学部、工学部など他学部との交流が容易にできる環境にあります。臨床のみならず研究面でも異分野連携・共同研究を行うことができるとしても恵まれた環境だと思います。

### 一今後の抱負をお願いします。

歯学研究科の皆様、医局員には有意義な海外留学ができた環境を与えていただき感謝いたしております。今後も臨床・研究において成果をあげることはもちろん、世界でも通用するグローバルな大学人になれるよう、留学先との国際連携を継続させ研鑽したいと思います。今後とも皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 部活動紹介

歯学部では課外活動において特に顕著な成績を挙げた学生等に歯学部課外活動賞を授与しています。平成29年度は第49回全日本歯科学生総合体育大会(以下、オールデンタル)総合優勝および男子団体優勝の「軟式庭球部」、男女総合優勝の「バドミントン部」に授与されました。

軟式庭球部 主将 西澤 匠

私たち東北大学歯学部軟式庭球部は1年生から6年生までの男子部員18名、女子部員13名で週4回、学部コートや外部コートで活動しています。部員は幼少時からソフトテニスに打ち込んできた経験者から、大学からソフトテニスを始めた者など様々です。部員皆、好きな時にきて活動しているので、勉強やアルバイトなどと両立をしながら和気あいあいとソフトテニスを楽しんでいます。私たち軟式庭球部は去年オールデンタル5連覇しましたが、特別な練習などはせず、自分たちでメニューを考え、練習とコミュニケーションを楽しみながら皆で勝つことを目標としています。今年のオールデンタルまで後数か月ですが、この目標を達成しながら6連覇できたら嬉しいです。



▲ 軟式庭球部(第49回オールデンタルでの集合写真)

バドミントン部 主将 山川 裕生

バドミントン部は現在40名の部員が在籍する、歯学部で一番人数が多い部活です。去年は優勝という目標を掲げた菅井キャプテンの下、厳しい練習に部員一人一人が精一杯ついて行った結果、オールデンタル総合優勝に繋がりました。今年の目標もオールデンタル総合優勝です。そのため新しい練習を取り入れ、一つ一つの練習の意味や目的をちゃんと説明して部員全員に理解してもらい、モチベーションを持って取り組んでもらえたらと思います。また部員一人一人をしっかり見てアドバイスをしたり、弱いところを強化できる練習もしていきたいと思います。オールデンタルニ連覇目指して残りの練習もがんばりたいと思います。



▲ バドミントン部(第49回オールデンタルでの集合写真)

新任教授紹介

## 活性酸素・フリーラジカルを応用した新しい歯科医療機器の創出

先端フリーラジカル制御学共同研究講座 教授

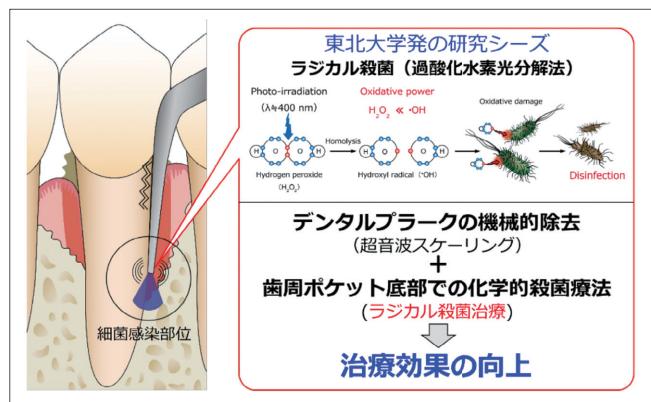
菅野 太郎



2017年7月1日付で、先端フリーラジカル制御学共同研究講座の教授として着任しました。本講座は株式会社エーゼットと本学の共同研究講座であり、これまでに私の研究グループで研究開発をしてきた活性酸素・フリーラジカルを応用した殺菌技術の歯科臨床応用を産学連携で進めています。

東北大学歯学部を卒業してから教授に着任するまで、歯科補綴学分野（旧：咬合機能再建学分野、現：分子・再生歯科補綴学分野）に所属し、教育・臨床・研究に携わってきました。臨床では、歯周病患者に対する補綴治療をメインテーマとして取り組んできました。こうした臨床を通して、歯科治療における細菌感染のコントロールの重要性を深く認識し、歯周病などの病原細菌を効果的に殺菌するために、活性酸素・フリーラジカルを応用しようという研究の着想に至りました。

活性酸素・フリーラジカルが慢性的に生体内で生成される状態になると、種々の疾患が引き起こされることが知られています。しかし、ある種の白血球は活性酸素を産生することで細菌などの微生物



▲図1 ラジカル殺菌を応用した歯周病治療のコンセプト

を殺菌して感染を予防する役目を果たしており、必ずしも生体にとって悪影響を与えるだけではありません。そこで、活性酸素・フリーラジカルの中でも特に反応性の高い水酸化ラジカルに着目し、3%過酸化水素に青色光を照射することで、局所において水酸化ラジカルを生成して殺菌作用を得る“ラジカル殺菌技術”を考案しました。

これまでの産学官連携プロジェクト（平成21-22年度 地域イノベーション創出事業、平成22年度 課題解決型医療機器支援事業、平成24-27年度 革新的医療機器創出・開発促進事業）において研究代表者を務め、上記のラジカル殺菌技術を応用した歯周病治療器を開発し（図1）、医師主導治験において有効性と安全性を実証してきました。現在は、研究成果を早期に社会に還元することを目指して、新規医療機器としての承認取得に向けて取り組んでいます。また、ラジカル殺菌技術は、歯周病に限らず、細菌感染が原因となる疾患、例えば齲歯や感染根管の治療に応用することが可能と考えられます。今後は、これらの疾患に応用するための新しい歯科医療機器の研究開発にも取り組んでいきたいと考えています。

### PRESS RELEASE

## 「やせ過ぎ」「家族・友人とのつながりの少なさ」「喫煙の多さ」が高齢者の寿命を縮めていた

東北大学大学院歯学研究科の相田潤准教授らの日英共同研究チームは、65歳以上の日本人13,176人、英国人（イングランド在住者）5,551人を約10年追跡したデータを分析しました。その結果、日本人は英国人よりも、男性は132日、女性は319日、長く生きており、下記のような比較データから高齢者の長寿に寄与する要因が明らかになりました。

#### 男性の場合

- ・家族とのつながりが多い日本人が、英国人より105日長生きしている。
- ・友人とのつながりが多い英国人が、日本人より45日長生きしている。
- ・喫煙習慣の少ない英国人が、日本人より47日長生きしている。
- ・低体重が少ない英国人が、日本人より212日長生きしている。

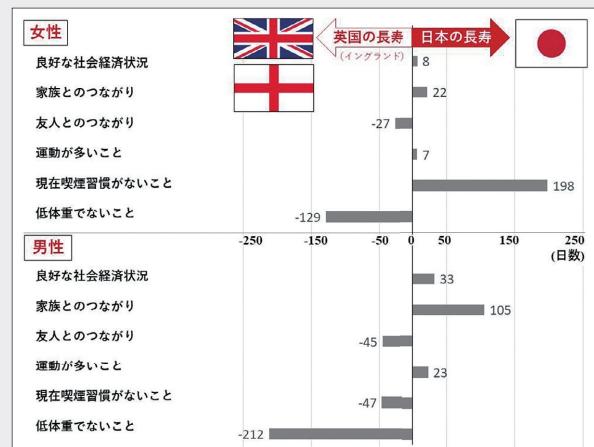
#### 女性の場合

- ・喫煙習慣の少ない日本人が、英国人より198日長生きしている。
- ・低体重が少ない英国人が、日本人より129日長生きしている。

日本人で最も改善の余地があるのは、男女ともに「やせ過ぎ」（低体重）から脱却することであり、男性では友人の交流を増やし、喫煙を減らすことにより一層の長寿が期待できます。英国（日本）で実現できている要因は、日本（英国）でも改善しやすい要因であり、これらの見を活かすことで、両国でより効果的な健康政策が立案できると考えられます。

本研究成果は2018年1月19日に老年医学の国際科学雑誌Gerontologyに電子版が掲載されました。

全文は、東北大学大学院歯学研究科・歯学部ホームページのプレスリリース（2018年3月2日掲載）をご参照ください。



#### プレスリリース一覧（2018年3月-5月）

- 2018年3月18日 震災後の医療費自己負担免除の効果が国民健康保険および歯科診療で大きい
- 2018年4月17日 医療現場発の医療器具用高清浄洗浄剤を開発 -歯科用セメントとタンパク質の同時除去洗浄剤-
- 2018年5月22日 他人への信頼感が健康に与える影響は地域によって変化する

## ■ NEWS

- ・2018年1月28日から6日間にわたってテキサス州ガルベストンで開催されたGordon Research Conferencesにて、保存修復科の石河真幸助教が、「Bones&Teeth Outstanding poster(優秀賞)」を受賞しました。
- ・2018年2月3日に仙台市で開催された第39回東北骨粗鬆症・骨代謝研究会において、歯科薬理学分野の中村卓史准教授が「優秀演題賞」を受賞しました。
- ・2018年3月9日に口腔診断学分野の笹野高嗣教授の最終講義「血流から味覚研究へー出会いー」が行われました。
- ・2018年4月14日、15日に大阪にて日本歯科理工学会・第71回学術講演会が開催され、歯科生体材料学分野の坂詰花子さんが「研究奨励賞」を受賞しました。
- ・2018年4月21日、22日に鶴見大学会館で開催された日本顎口腔機能学会第60回学術大会にて、高齢者歯科治療部の伊藤佳彦医員が「学術大会最優秀賞」を受賞しました。

## ■ 平成30年度行事予定

6月22日(金)	創立記念日
7月9日(月)	大学院入試(10月入学および1次募集)
7月30日(月)~8月10日(金)	全日本歯科学学生総合体育大会
7月31日(火)、8月1日(水)	オープンキャンパス
8月7日(火)、8月8日(水)	教員免許状更新講習
9月29日(土)、9月30日(日)	東北大ホームカミングデー
11月10日(土)~12月8日(土)	みやぎ県民大学
12月11日(火)	大学院入試(2次募集)

## ■ 人事(平成30年1月~平成30年6月)

昇任	4月	山田 将博	准教授	分子・再生歯科補綴学分野
昇任	1月	山口 哲史	講師	病院 高齢者歯科治療部
昇任	4月	依田 信裕	講師	病院 咬合回復科
採用	4月	大泉 文史	助教	顎顔面・口腔外科学分野
採用	4月	萱場 敦子	助教	顎口腔形態創建学分野
採用	4月	演井 瞻	助教	顎口腔機能創建学分野
採用	4月	布村 陽平	助教	歯学イノベーションリエゾンセンター
採用	4月	石山 希里香	助教	先端フリーラジカル制御学共同研究講座
採用	4月	白土 翠	助教	先端フリーラジカル制御学共同研究講座
採用	4月	鈴木 茂樹	講師	病院 歯周病科
採用	4月	丸谷 由里子	講師	病院 小児歯科
採用	4月	武田 裕利	助教	病院 歯科顎口腔外科
採用	4月	藤田 雅俊	助教	病院 歯科麻酔疼痛管理科
採用	6月	溝口 到	教授	顎口腔矯正学分野
配置換	4月	中村 圭祐	准教授	先端フリーラジカル制御学共同研究講座
配置換	4月	天雲 太一	助教	先端フリーラジカル制御学共同研究講座
配置換	4月	木山 朋美	助教	東北メディカル・メガバンク機構
配置換	4月	福島 桢	助教	口腔システム補綴学分野
辞職	3月	笹野 高嗣	教授	口腔診断学分野
辞職	3月	正木 英二	教授	歯科口腔麻酔学分野
辞職	3月	穴田 貴久	准教授	顎口腔機能創建学分野
辞職	3月	城戸 幹太	助教	病院 歯科麻酔疼痛管理科
任期満了	3月	庭野 吉己	教授	生体適合性計測工学寄附講座
任期満了	3月	戸田 孝史	准教授	口腔生理学分野
任期満了	3月	福島 秀文	准教授	先端再生医学研究センター
任期満了	3月	宮下 俊郎	助教	歯学イノベーションリエゾンセンター
任期満了	3月	小野 真理子	助教	病院 小児歯科
任期満了	3月	神田 直典	助教	病院 歯科顎口腔外科
任期満了	4月	室井 梢	助教	歯学イノベーションリエゾンセンター

## ■ 新任教授紹介

平成30年6月、溝口到教授が顎口腔矯正学分野に着任されました。

## ■ 平成29年度各賞受賞

総長賞	蔡 優広(大学院)、梅原 典子(学部)
優秀学位研究賞	佐藤 遼洋
Straumann Award賞	岩間 亮介
デンツプライ賞	大河原 愛奈、伊藤 蘭
モリタ・ハノー賞	松岡 路子
クインテッセンス賞	梅原 典子、小野 沙也加

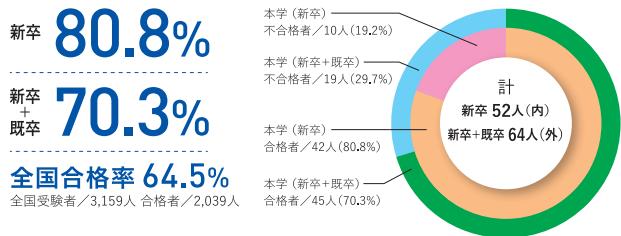
## ■ 第111回(平成29年度)歯科医師国家試験合格率

### 本学合格率

新卒 80.8%  
既卒 70.3%

全国合格率 64.5%

全国受験者 / 3,159人 合格者 / 2,039人



## ■ 歯学研究科 大学院生募集

### 平成31年4月入学

平成31年4月入学

・博士課程: 42名  
・修士課程: 6名

- ・出願期間(1次募集)  
平成30年6月4日(月)~8日(金)
- ・試験日(1次募集)  
平成30年7月9日(月)
- ・出願期間(2次募集)  
平成30年11月5日(月)~9日(金)
- ・試験日(2次募集)  
平成30年12月11日(火)

詳細は、歯学研究科ホームページをご覧ください。

<http://www.dent.tohoku.ac.jp/>

### お問い合わせ

東北大学大学院歯学研究科 教務係

Tel: 022-717-8248 Fax: 022-717-8279

## ■ みやぎ県民大学

がっこう  
学口のすゝめ ~お口から健康を考える~

会場	東北大学歯学部実習講義棟B1講義室
開催日程	第1回: 平成30年11月10日(土) 13:00 - 15:00
	第2回: 平成30年11月17日(土) 13:00 - 15:00
	第3回: 平成30年12月 1日(土) 13:00 - 15:00
	第4回: 平成30年12月 8日(土) 13:00 - 15:00
募集期間	平成30年9月3日(月) - 10月31日(水)

## ■ 編集後記

今年度4月より歯学研究科広報委員会は、研究科企画・広報の戦略と実施をミッションに「IR広報戦略室」へ改称いたしました。新しくなったIR広報戦略室ではNEWSLETTERの発行に留まらず、情報発信やイベントの企画等、多方面の広報活動に取り組んでいく所存でございます。末筆になりますが、新年度のご多忙な時期にもかかわらず、発行にご協力いただきました皆様には心より感謝申し上げます。今後とも変わらぬご支援の程よろしくお願ひいたします。  
(記 上杉)

## ■ 編集・発行

### 東北大学大学院歯学研究科IR広報戦略室

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4-1

Tel: 022-717-8244 Fax: 022-717-8279

E-mail: [newsletter@dent.tohoku.ac.jp](mailto:newsletter@dent.tohoku.ac.jp)

<http://www.dent.tohoku.ac.jp/>